#### 地域主体の連携による環境にやさしい街づくり

#### 京都府長岡京市環境業務課 〇木本 直樹

#### 1. 活動方針·目的

地域住民にとって身近な商店街が、地域コミュニティの担い手として地域の様々な主体と 連携しながら社会貢献活動を展開することにより、地域の活性化に繋げるとともに真に地域 に必要とされる存在としての社会的価値を高めていく。

#### 2. 活動内容

商店街が中心となった地域社会の創生を図るため、商工会や市民団体、行政、教育委員会 など地域の多様な主体と連携を図りながら、商店街地域活性化委員会「チームアゼリア」を 結成し、地域協働で「街路灯用 LED ランプの自作」、「小学校の環境学習」、「小学生の絵画 コンクール」、「オリジナル『アゼリ傘』の貸出」などの社会貢献活動を企画、展開している。

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

商店街地域活性化委員会は商工会や行政、教育委員会、市民環境団体、地元大学生等、地 域の様々な立場の人々との連携により組織されている。委員会が行う活動の企画はメンバー の大学生ら若い世代に主体性を持たせるようにし、若い感性を街づくりに活かしながら、活 動に携わることにより、若年層にあたる人々に街に愛着を持ってもらうきっかけとなること を期待している。

活動にあたっては活動を共にする環境団体や市内の小中学校などに直接出向いて目的や趣旨を丁寧に説明し、信頼関係大切にすることで地域社会との結びつきを強固にしている。

2008年に商店街が自作した街路灯用LEDランプは全国の街路灯に取りつけられている LED ランプのプロトタイプとなり、2013年から行っている小学生の絵画募集は、市が小 学校4年生を対象に行う環境教育プログラムと結び付け、最優秀賞は市のごみ収集車にプリ ントするなど広く啓発を行った。これらは地球温暖化問題や市が課題としている「ごみの減 量」に向け、地域全体の環境意識の向上を意識したものである。

#### 4. 今後の課題等

全国の商店街は後継者問題や少子高齢化により組合員数が減少し、かつての活力を失いつ つある。長岡中央商店街でも全盛時には百数十を数えていた組合員数が、現在は60数店舗 にまで減少している。地域に根付いた老舗の店舗が後継者問題によって廃業し、空店舗には 全国画一的なフランチャイズ店が出店するなど形態が様変わりした故郷に、地域の人々にど のようにして愛着を持ってもらい、そこに住み続けてもらうか。現在の地方都市が直面する 課題となっている。

また、高齢化社会が進行する中で、商店街の衰退は買い物難民という新たな問題を浮き彫 りにしている。地域住民の生活圏に位置する商店街では、高齢者が歩いて気軽に買い物に行 けるという立地を生かしながら、若い世代にも受け入れられるようなサービスと品揃えをも って生き残りを模索していかなければならない。

長岡中央商店街の地域活性化委員会「チームアゼリア」は、そのような社会的課題についてともに考え、地域社会に何をもって貢献していくかを考えて行くための組織であり、今後も時代の要請に応えるための活動を企画、実施していきたいと考えている。

# 地域主体の連携による 環境にやさしい街づくり

### 長岡中央商店街地域活性化委員会 木本直樹





# 長岡京市の環境教育











## 商店街地域活性化委員会チームアゼリア

役職	氏名	所属
委員長		長岡中央商店街振興組合 理事長
副委員長		長岡中央商店街振興組合 副理事長
委員		長岡中央商店街振興組合 専務理事
委員		長岡中央商店街振興組合
委員		長岡中央商店街振興組合
委員		京都府立大学 学生
委員		京都造形芸術大学 学生
委員		立命館大学 学生
委員		フリーター
委員		フリーター
委員		長岡京市環境業務課
委員		長岡京市商工観光課
委員		長岡京市教育委員会
委員		長岡京市観光協会
委員		長岡京市商工会









